

## Teaching and learning in the community

今回の執筆者：吉村 学

岐阜県揖斐郡北西部地域医療センター (久瀬村診療所)

〒501-0702 岐阜県揖斐郡久瀬村東津汲875-2

### 開設までの歴史

久瀬村の医療は戦後、一軒の開業医により提供されてきました。しかし開業医自身の高齢化に伴い、村立の診療所を設立する機運が高まり、昭和55年4月に開設されました。初代所長は自治医大第1期生の石黒医師が2年間務め、その後3期卒業生の山田隆司医師が赴任し、以後現在まで約20年にわたり診療を続けています。平成10年4月に従来よりある診療所に加え、介護老人保健施設、在宅介護支援センター、温泉施設を複合した揖斐郡北西部地域医療センターが近隣4か村(久瀬・春日・藤橋・坂内村)の共同出資により開設されました。ハード面は自治体、管理運営は社団法人地域医療振興協会へ委託するという「公設民営方式」が採用されました。これに伴い、山田医師はセンター長へ、吉村は第3代目の診療所長として赴任しました。平成14年2月より白戸あゆみ医師が常勤として赴任して複数医師体制となっています。



山田隆司医師

### 緩やかなグループ診療体制

久瀬村には3名常勤し、坂内村、春日村、藤橋村にはそれぞれ1名づつ常勤して合計6名で人口約5000人弱の過疎化の進んだ地域をカバーしています。定期的に相互の診療支援を行い、週一回テレビ会議システムで在宅や入院所患者の情報交換を多職種参加で実施しています。このような緩

やかなグループ診療体制をとっています。

久瀬村、この地域が専門の医者、

### Population doctor

久瀬村は人口1500人弱、高齢化率38%、岐阜県内で3位です。トップの坂内村50%、2位の春日村40%と岐阜県内99市町村のうちトップ3が揃っている過疎先進地です。日本全体の水準が同じくらいになるのは約50年先です。その意味では時代の先端にいるといっても過言ではありません。外来患者や在宅医療などの実践はまさに「家庭医療」であると思いますし、また診療所の外、地域の中での活動も力を入れています。そんな取り組みを実践しているうちに、患者さんや住民から「先生の専門はなんですか？」と良く聞かれますが、「専門は家庭医療、地域医療です。そして久瀬村が専門の医者です」と自信を持って答えるようになりました。Family doctor であると同時に Population doctor でありたいと考えています。

### フットワークの軽さが武器

我々の活動範囲は、施設内はもちろん、地域の中のあるところとあります。保育園、小中学校、公民館、消防庫、お寺、役場、事業所などに顔を出すようにしています。主に保健事業や健康相談、健康教育が中心ですが要請があればいつでも行けるように考えています。2年前から毎月20日消防の日の夜8時から若い世代・勤め人を対象にした情報交換の会を行政や社会福祉協議会などと連携

を取りながら実施しています。待っているより出前する「攻めの地域医療」を自らの靴をすり減らして行うことが大事だと思います。

#### Health needs assessment in the community

診療所の中、地域の中のニーズは何かを考えるようになりました。地域全体で考える目標や現在この地域が抱える問題点を一緒に考える必要があるのに、これまで十分住民の意見や本音を吸い上げる努力をしてこなかった反省があります。市町村合併を間近に控えた最近は特にそう思います。従来からのトップダウン方式ではなく、住民が主体的に考えることができるよう支援して反映させていくボトムアップ方式でやっていけるといいなと思います。特に我々のような僻地では自分達の施設、地域の量的・質的なデータを収集し分析する作業やその能力が今求められています。

#### Teaching and learning in the community

当施設で最も力を入れていることの一つは、地域での教育です。90年代初めから医学生や研修医を診療所で教育することに取り組んでいます。現在では医学生（名古屋・札幌・自治・三重大）、研修医（北海道家庭医療学センター、他）、卒後5年以降の医師、海外研修生（オレゴン健康科学大家庭医療学レジデント、中国、他）などを定期的ないしは不定期に受け入れています（写真）。



研修医、米国ミシガン大学医学生といっしょに往診

診療所の中だけでなく地域の中も学習の場になります。医療だけでなく生活の視点も学ぶため様々な工夫を取り入れています。例えば独居老人宅ホームステイや他職種勉強会「ふるさと福祉村」への参加などです。このような研修を通じて保健・医療・福祉の視点の統合を学生・研修医の時代から身につけることが可能になるかもしれません。

また医学生だけでなく様々な領域の学生とともに地域の中に身をおいて学ぶワークショップを一年前から開始しており、参加した学生や受け入れてくださった住民から概ねよい評価をいただいています。いわば他流試合のような試みですがこれも刺激的です。

これまでの取り組みを見直しながら具体的な教育パッケージやカリキュラム開発も少しずつ行っています。地域の中にある豊富な教育的資源（様々な機会や先生役）をうまく活用、アレンジしながら教わる教えるといった上下の関係ではなく共に学びあう姿勢で取り組んでいます。また久瀬村だけでなく近隣地域全体にそのような教育機能を持たせて、一種の経済活動を行い、地域全体をいわば学習都市 Learning City にしようとする非営利団体 NPO を平成15年4月よりスタートします。

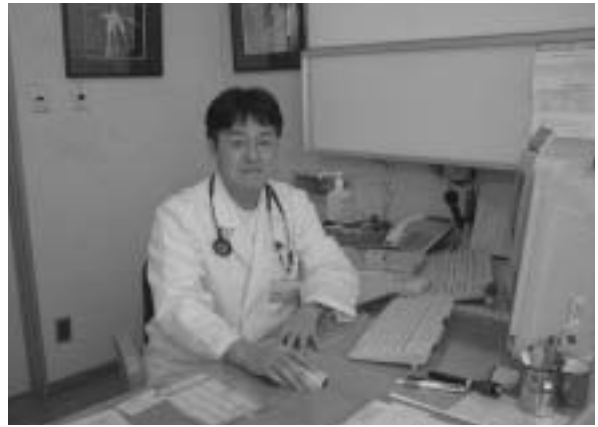
#### 海外との交流

家庭医療の先進国である米国のオレゴン健康科学大家庭医療学教室とは地域医療振興協会を通じて年々活発な交流を行っています。レジデントがエレクトティブの枠で一ヶ月程度研修にきたり、家庭医療の教科書を書いている有名なテイラー教授ご夫妻を招いて教育についてのワークショップを毎年開催したりしています。レジデントは非常に優秀で、様々な観点から常にディスカッションしてくれるのでとても刺激的です。一緒に研修が重なった学生さんなどはとても刺激になるようです。日米の地域医療や家庭医療の比較や同じ部分、医学教育の差など大変勉強になります。また豪州のバララッド大学看護学教室からはスンドラン教授（教育学・社会学）が地域調査を兼ねて昨年

2週間程度滞在して一緒に地域分析に取り組んでいます。こちらも刺激的な議論が交わされ、地域住民との交流もあってとても楽しい時間になります。

#### Hidden agenda

当地での生活はとても楽しいです。春は桜の花見、夏は川で泳ぎ、魚（鮎）釣り、バーベキュー、夏祭り、ソフトボール大会、秋は祭り、冬はスキー三昧といったように快適なカントリーライフをエンジョイできます。また夜は温泉で汗を流したあとで、酒を酌み交わして家庭医療・地域医療談義や人生相談、よた話をする「隠れたカリキュラム」があります。見学や実習はいつでも受け入れています、一度是非お越しく下さい。アットホームな雰囲気でお待ち申し上げます。



吉村 学

連絡先：吉村 学

〒501-0702 岐阜県揖斐郡久瀬村東津汲875-2  
揖斐郡北西部地域医療センター  
久瀬村診療所

TEL：0585-54-2231 FAX：0585-54-2235

ホームページ：<http://www.yamabiko.netspace.jp/>

E-mail：mnb@mbs.sphere.ne.jp